



夏休み返上で地図のデザインに取り組み玉城さん(写真手前)と松川さん。「デザインを通じて社会貢献ができれば」とグラフィックデザイン科教務部第1課主任の新垣徹さん

街歩きで見つけたことをヒントに作成中の地図の表紙案。「浦添市のシンボルの太陽から史跡につながる道を表現しました」と玉城さん。今年度中には完成する予定です



「ずっと住んでいると、気付かない点がたくさんある。案内するつもりで、新しい発見がたくさんありました」と日本人ボランティアの一人、大城直史さんは話す。7月末には、彼が中心となり「街歩き国際交流サークル」を結成。「まずは自分たちの街を見つめ直そう」と、大学生からベテラン世代まで、週1回歴史や伝統文化などについての勉強会を開いている。今後はこのサークルのメンバーが中心となり、スパーの見学や浦添の歴史探訪、お花見ツアーなど、年6回のペースでさまざまなテーマの街歩きを行っていく予定です。

「外国人の方に、この街に住んだという『証』を感じてほしい」と浦添市国際交流協会の新垣淳子さん。「言葉が通じなくても、コミュニケーションツールはある。そのきっかけをつくるのが街歩きなんです」。共に時間を過ごすだけで、お互いに学ぶことはたくさんあるはず。新垣さんたちは、いずれはこの取り組みが沖縄全土に広がり、県が目指す「外国人観光客年間100万人達成」に向けてソフト面の整備ができればと期待を寄せる。

一度会ったら、みなきょうだい。浦添から、言葉や文化の壁を越えた「いちやればちよーでー」の精神が確実に広まりつつある。

(上)8月26日にJICA沖縄で開催されたサマーフェスタで空手を披露する研修員。JICAの国内機関では、このような地域との交流行事が盛んに行われている
 (下)日本人ボランティアは「街歩きボランティア養成講座」に参加し、街歩きに必要なノウハウを学ぶ



ちづくり。その第一歩として、浦添の人たちが市内に住む外国人に街を案内し、そこで外国人の目線から見えて改善してほしい点を指摘してもらう「街歩き」をすることに。すると、この話を知った多くの人が「外国人に浦添の魅力を伝えたい」と賛同してくれた。

そして週末の7月4日、第1回の街歩き当日。日本人ボランティア19人、JICAの研修員を含む外国人12人の計31人の参加者が6グループに分かれて市内を散策。道端にさりげなく咲く南国の花々、店先にあるシーサー、近所の焼鳥屋さん…。それ

まで足を踏み入れられなかった店に入ると、皆が温かく迎えてくれた。気温30度を超える暑さの中の街歩き。しかし、どの参加者も生き生きとした表情をしていた。

さらに、この街歩きで得た情報をもとに、浦添市の地図(英語版)の作成が進められている。「警察署や郵便局の目印がなくて不便」バス停の位置が分かり

にくい。「信号が地図に載っていない目印になる」など外国人参加者の声を参考に、専修学校「インターナショナルデザインアカデミー」グラフィックデザイン科の2年生4人が地図をデザインした。「これまで勉強してきたことが、誰かの役に立てるなんてうれしい」という玉城侑衣さんと松川笑さん。彼女たちも街歩きに参加し、「外国人の目線」に立つことでデザインのヒントを得たようだ。

「いらっしやい！今日はエビがおすすだよ」
 肌をこがすような日差しをくぐり抜け、街角のお弁当屋に入ると、店員のおばちゃんの明るい声が響いた。少し不安そうなお客を浮かべながら、店先に並ぶ天ぷらを選んでいるのはJICA沖縄の研修員たちだ。

那覇市内から車で約20分。首里城から北に延びる石畳の道、

琉球時代の城跡など、豊富な歴史遺産を有する沖縄県浦添市。その小高い丘を上がると、年間約400人の研修員が学ぶJICA沖縄国際センターが見える。そのほかにも、約500人以上の外国人が暮らすここ浦添市は、「いわゆる『国際色』にあふれる街だ」。

しかし、ここに一つの問題がある。「実は、自由時間があってもセンターからほとんど出ない研修員もいるんです」とJICA国際協力推進員の我如古盛修さん

「日本語が分からないから、お店のメニューも読めない。不安で買い物に行けず、カップラーメン一つ買えないんです」。そう、それは私たちが外国に行っても経験すること。確かに迎えるを見渡すと、浦添の街中には英語表記が少ない。地域の人たちも、彼らと交流したい、お客さんとして迎え入れたいと思いが、「英語ができない」「初対面だと恥ずかしい」などの理由で、その一歩を踏み出せずにいた。

来ているのだから、もっと地域の人と触れ合って浦添の街を知ってほしい。そう考えた我如古さんは、「地域の人がホストファミリーのような気持ちで外国人を受け入れるようになってくれれば」という思いを込めて、今年春から浦添市国際交流協会と協働で「街全体がホストファミリー化計画」をスタートさせた。

外国人に分かりやすい地図を作ろう

テーマは「外国人に優しい」

どこで買い物すればいいか分からない!?



(上)「おすすめの天ぷらはどれですか?」。吉屋弁当では買い物に挑戦
 (下)音楽工房「創奏」で三線の弾き方を教えてもらうドミニカ共和国の研修員マリアさん(左)

外国人に沖縄をもっと知ってほしい。異国の地で、その土地に飛び込んでいくのは勇気のいること。そこで、地域のひとと市内で暮らす外国人をつなぐため浦添市で「街歩き」を通じたまちづくりがスタートした。

沖縄の観光促進に 外国人の力を

浦添市
那覇市

